

令和3年4月1日

令和2年度 安全運転マネジメント活動の結果公示

<令和元年度目標>

- ①事故件数 15 件以内を達成する。
- ②重大事故発生 0 件を目指す。

<結果>

- ①コロナ禍の影響を受け稼働率が大きく減少した事もあり令和2年度の車両事故は1件となり目標達成となりました。その内容を分析しますと、軽微な自損事故でありました。改善の主たる原因は運行管理者を中心とした乗務員全員に安全運転マネジメントの趣旨が徹底され乗務員は常に集中力・緊張感をもって業務に臨む様になった事であると考えます。今後は安全に対する設備投資を積極的に行うと共にヒューマンエラーの減少を図るためヒヤリハット情報収集および分析等を行い乗務員に還元する事で安全運転に一層真摯に取り組んで行く方針です。
- ②職員一丸となって重大事故発生の無い様に運行管理体制および教育指導を強化した結果、令和2年度の重大事故発生件数は0件となり、目標を達成する事が出来ました。今後も一層、安全体制を強化し事故の発生の減少に真摯に取り組んで参ります。

令和3年4月1日

代表取締役 村松 久史

■令和3年度における安全マネジメントレビュー

1. 輸送の安全に関する基本方針

- ① 代表者および安全統括管理者である村松久史は輸送の安全が事業経営の根幹である事を深く認識し、社内において輸送の安全確保に主導的な役割を果たして参ります。更に本年度は、昨年来から続くコロナ禍の影響による従業員、顧客の健康管理維持にも注意すると共に、長期間乗務機会が減少した結果からくる運転感覚の衰えを考慮し、従来にも増して安全運転に対する基本を徹底して行くべく運行管理体制を強化して方針である。
- ② 監査担当者を中心に安全マネジメントサイクルを計画的に実施し、ガバナンスの強化を進めると共に、社員の声に真摯に耳を傾け、職員一丸となった輸送の安全性の向上を図ります。また、ヒヤリハット情報も昨年同様、積極的に収集分析し乗務員に還元し更なる安全性の追求を行っていく方針である

2. 輸送の安全を確保するための重点施策

- ① 輸送の安全に関する研修をスケジュールに沿って実施し、関係法令の徹底や改正事項の周知を進める。
- ② デジタコおよびドライバーズレコーダーを有効活用し実例に沿った個人指導を中心とした教育を行う。
- ③ 運行管理システムを有効活用して労務管理を強化し乗務員の健康管理を徹底する。
- ④ 内部監査を実施し、問題点の改善策を検討し、更なる安全体制を構築する。
- ⑤ コロナ対策の徹底を図り、従業員および顧客の感染を未然に防ぐべく体制を強化徹底して行く。

3. 令和2年度 運輸安全マネジメントの結果公表

<令和2年度目標>

- ① 事故件数 15 件以内を達成する。
- ② 重大事故発生 0 件を目指す。

<達成状況>

- ① 板金塗装を伴う接触事故は 1 件であり目標を達成した。

- ②報告関連事故は発生せず目標を達成した。
- ③コロナ禍の影響で稼働率が激減したため目標達成は当然の事である。

4. 令和3年度安全方針

- ①事故件数を15件以下とする。
- ②重大事故発生0件を目指す。

5. 具体的計画

- ①デジタコ・ドライバーズレコーダーを有効活用し、個別指導を強化する。
- ②スケジュールに沿って安全に関する研修を実施し安全運転教育を強化する。
- ③点呼時のチェックを強化し、健康面等の面前確認を確実に実施する。
- ④ヒヤリハット報告を毎月義務化し情報収集と分析結果の還元を図る。
- ⑤ブランクの空いた乗務員の感覚を確認した上での乗務依頼を図る。
- ⑥取り決めたコロナ対策をしっかりと実施し、従業員および顧客のコロナ感染を未然に防ぐ。

6. 安全に関するコミュニケーションの方法

- ①社長による朝礼の実施
- ②半期毎の部長による個人面談の実施
- ③意見箱の有効活用
- ④情報 memo の有効活用
- ⑤定例の社内運行管理部門と現業部門のミーティングの実施

7. 安全に対するその他の取組重点事項

- ①新運行管理体制を早期定着化しシステマティックな運行管理を行う
- ②運行管理者の外部研修への積極的参加と指示能力の強化。
- ③点呼時の乗務員の健康状況を把握するためのデバイス購入の検討。
- ④乗務員の外部ドライビングスクールへの参加。
- ⑤従業員数の適正化を図り過労防止に努める。

■令和3年度 安全方針

<目標>

①事故件数を15件以下とする。

※乗車前・乗車後点検の徹底

②重大事故発生0件を目指す。